

幼児教育史学会 会報

第 36 号

目次

第19回大会開催案内	大会実行委員会
新入会員自己紹介	有間梨絵、小笠原正太郎、石川 素子、
新入会員・会員異動 / 寄贈図書	
事務局からのお知らせ	



第19回大会開催案内

第19回大会は、2023年12月16日(土)に青山学院大学で開催いたします。

青山学院は、来年に創立150周年を迎えます。その源流は、米国のメソジスト監督教会が日本に派遣した宣教師により、1870年代に創設された女子小学校、耕教学舎、美會神学校という3つの学校です。それ以来、時代の変化に対応しながらキリスト教信仰に基づく教育を貫き、幼稚園から大学・大学院までを擁する総合学園として教育・研究の使命と責任を問い直してきました。その歩みには、創立140周年を控えた2013年に、青山学院女子短期大学で開かれた幼児教育史学会第9回大会もありました。それから10年の歳月を経て、新たに10年後、30年後のビジョンを描いていこうと機運が高まる時期に、第19回大会の会場校となる機会に恵まれたことは喜ばしいかぎりです。

今大会は、前回第18回大会の開催方法を踏襲し、1日目の大会は対面、2日目の関連企画はオンラインによる開催を予定しています。新型コロナウイルス感染症の5類移行にともない、さまざまな社会的活動の回復傾向がみられますが、感染防止対策には自主的な必要性の判断と主体的な実施が求められています。このため懇親会の開催は見送り、また感染状況の変化によっては、大会の開催方法を変更する可能性もあります。その場合は、すみやかに学会ホームページにてお知らせいたします。

シンポジウムは、子どもの権利条約の国連総会における採択、および日本の批准の年からそれぞれ数えた節目を迎える時期であることから、子どもの権利の歴史と課題を問うことを企画しています。

プログラムは10月に発送する予定ですが、最新の情報は学会ホームページで適宜お知らせいたします。皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

(第19回大会実行委員長：福元真由美)

大会開催要項

1. 期日:2023年12月16日(土) 大会
2023年12月17日(日) 関連企画

2. 会場: 青山学院大学 青山キャンパス

3. 大会日程(予定)

9:00～ 受付
9:30～13:00 研究発表
14:00～16:30 シンポジウム
16:45～17:30 総会

4. シンポジウム

テーマ: 子どもの権利と保育・幼児教育 —— 歴史と現状 —— 提案者: 喜多明人(早稲田大学[名]) 浅井幸子(東京大学) 稲井智義(北海道教育大学) 指定討論者: 近藤幹夫(白梅学園大学[名]) 司会: 未定
--

〈趣旨説明〉

本大会は、子どもの権利条約の採択から35年、日本の批准から30年にあたる2024年を目前にした時期に開かれる。そこで、この30年ほどの間に世界や日本の子どもの権利をめぐる状況がどう変化し、現在どのような地点に達しているか—その概観と保育・幼児教育への提起について、歴史と現状の双方から考えてみたい。

具体的には、まず第1提案者として、子どもの権利(条約)に関する研究・運動の第一人者である喜多先生(非会員)から、上記の概観をしていただく。つぎに、それを受けて、第2提案者の浅井会員に、子どもの権利(条約)からみた主に欧米諸国の保育動向の特徴と課題について、第3提案者の稲井会員から、近代日本における子どもの権利探求の動きと保育の歴史について、それぞれ問題を提起していただく。さらに、保育の研究・実践に深く通じている近藤会員から各報告への質問などを伺いたい。最後に、人権途上国と評せられる日本社会において保育・幼児教育の歴史研究に携わっている会員諸氏との間で、問題をめぐる意見や取り組み・情報などを交換したい。多くの方々の参加をお待ちしています。

5. 大会参加費

会員・非会員ともに1,000円、大学院生は無料(受付で学生証を提示してください)。なお、今回は懇親会の開催はいたしません。

6. 研究発表の申し込み

- ① 申し込み方法

第19回大会の申込書は、学会HPからダウンロードしてください。9月11日(月)までに記入済みの「研究発表申込書」を電子メールに添付して学会事務局へお送り下さい。

宛先: admin@youjikyoiokushi.org

数日以内に到着メールを送信します。

- ② 発表資格

・一般会員: 申し込み時に年会費を納入済みのこと
・新入会員: 申し込み時までに入会手続きを終え、年会費を納入済みのこと

- ③ 発表時間

1人(1グループ)あたり30分(質疑応答5分を含む)を予定していますが、変更する可能性もあることをご了解ください。

- ④ 発表受付手順

学会事務局で申し込みを受領した後、理事会にて発表内容を検討します。その結果、発表数調整のため、個別に連絡を差し上げる場合があります。

7. 関連企画(愉フォロ会)のご案内

大会翌日「海外の幼児教育史の研究動向を愉しみながらフォローする会(愉フォロ会)」を開催いたします。オンラインの場合には追って詳細をご案内いたします。

日時: 12月17日(日) 9時半から

内容: 星三和子 『イタリア・ピストイアの乳幼児教育』(明石書房、2023年)の読書会を予定しております。

(幹事: 塩崎美穂)

<大会に関する問い合わせ先>

〒150-8366 渋谷区渋谷4-4-25

青山学院大学 教育人間科学部

福元真由美研究室気付

幼児教育史学会第19回大会実行委員会

電話: 03-3409-8537 (内線 12694)

E-mail: fuku@ephs.aoyama.ac.jp

新入会員からの自己紹介文（今後、ご寄稿あり次第、掲載させていただきます）

「進歩主義の父」フランシス・W・パーカーから

2023年1月に貴学会に入会いたしました、早稲田大学教育学研究科、博士課程4年生の小笠原 正太郎（おがさわら しょうたろう）と申します。この度は会報にてご挨拶の機会をいただけたこと、心より感謝申し上げます。

さて、私が専門として研究している分野はアメリカの教育史、特に19世紀後半でございます。この時代の教育界を概観しますと、ヨーロッパから受容された教育思想が様々な形で解釈され、手が加えられ、いわゆるアメリカの「新教育」が芽吹いた時代であると称することができます。

この時代を代表する教育者といえば、真っ先にジョン・デューイ（John Dewey）が思い浮かぶかもしれません。しかし自身の曲がった性格が起因してか、私は研究対象として選んだ対象は、一人の別の人物と、一つのスローガンと、一つの教育方法論でした。その人物とは、デューイから「進歩主義の父」と呼ばれたことで知られるフランシス・W・パーカー

（Francis W. Parker）で、デューイよりも一世代前の人物です。また、私が注目したスローガンとは「なすことによってなすことを学ぶ」（learn to do by doing）という言葉です。これは、私たちが普段耳にするであろう「なすことによって学ぶ」の亜種（源流？）であると考えられます。最後に私が注目した教育方法論は、オキュペーション（occupation/Beschäftigung）であり、私はこの起源にフレーベル（Friedrich Wilhelm August Fröbel）を認めています。

こういった一見ばらばらで、統一がなかなか見えづらい研究対象の中、日々、悪戦苦闘をしておりますが、私の夢は、これらを鍵概念として軸としながら、この時代の教育史・教育思想に一つの流れを見出す、というものであります。しかしこうした私の目標を追求するためには、アメリカに影響を与えたフレーベルの思想から、アメリカに受容された幼稚園教育、当時アメリカで一般的であった幼児保育、その年齢

の子どもたちの社会的境遇まで幅広く考えていけないといけません。一人で机に向かって一次資料に粘り強くあたる努力も大切ですが、先人・先輩方のこれまでの研究や言葉に触れることも同じくらい重要であると思います。自分のこれまでの考えはあっているのだろうか、これからどこに進むべきなのだろうか、諸先生方からのご教示を賜れば、と存じます。諸先生方との交流を通じて、様々な知を研鑽させていただければ、この上ない喜びです。

どうぞ若輩者ではございますが、これからもよろしくお願い申し上げます。

小笠原 正太郎（早稲田大学 院生）

入会のご挨拶

2022年度に入会いたしました有間梨絵（ありまりえ）です。

教育実践について歴史やインタビュー分析等のアプローチで研究しています。特に養護教諭（保健室の先生）をテーマとして、戦後の健康教育・性教育のカリキュラムの開発や「保健室登校」の位置付け、民間研での議論などを検討してきました。養護教諭は、実は日本独自の歴史的発展を遂げた教育職であり、ケアリングの視点を持った教師の葛藤や実践創造を描いています。

幼児教育分野では、東京大学発達保育実践政策学センターの特任研究員として、公立保育園でのレッジョ・エミリア市の幼児教育に触発された探究活動の実践・研究に取り組んできました。幼児教育史研究では、戦後の羽仁もと子・説子による幼児生活団の実践を検討し、入会のきっかけとなりました。幼児生活団の実践は、生き物の飼育を中心として、地図作りや解剖、作詞、絵、粘土など様々な活動に発展し、レッジョ・エミリア市のプロジェクト活動を彷彿とさせる子どもの主体的で創造的な探究であるとワクワクしながら史料を漁りました。

またプライベートでは0歳の子どもを育児し、羽仁もと子の「生活即教育」という言葉が心にしみるようになりました。これからは私自身の変化と重ねながら、幼児教育史を探究して

参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

有間 梨絵 (目白大学)

新入会員としてのごあいさつ

2022 年度入会の石川素子です。

私自身は長らく保育現場で実践を行っていました。勤めていた保育園がわらべうたの実践を行っていたこともあり、現役時代にはコダーイ芸術教育研究所の研修に参加したり、コダーイシステムを日本の保育に導入した羽仁協子氏から保育実践の観察指導を受けたりもしました。

その後、自分の実践を研究できないかと「わらべうた保育の歴史的研究」をテーマに大学院で学びを深めました。わらべうた保育が導入された 1970 年代から保育実践を行っていた現場の方々の話を聞く機会があり、わらべうたから始める実践を継続する中で、子どもの主体性を重んじること、親子のスキンシップから愛着関係の形成、乳児期の育児担当制の大切さ、子ども同士の仲間関係の構築など幅広い分野に発展し、それらの学びを深め、実践を広げていこうとする当時の保育者の姿を想像することができました。

平成 30 年度より施行されている保育所保育指針、幼稚園教育要領においても文化や芸術に親しむ際、その活動の一つとして「わらべうた」が挙げられています。決してわらべうたは古いものではなく、では現場で長い間実践されているのは何故なのか、私はこれからもこのテーマに向き合っていきたいと思っています。

現在は、保育士養成校の実習センターで、保育実習・施設実習の事前事後指導や巡回指導、就職指導を主な仕事としております。センター内の共同研究では「保育者養成課程における学生の保育観及び保育者としての専門性の形成に関する意識」や「大学初年次学生が抱える不安感と困難さ ～保育実習に向けて～」ということを研究のテーマとして主に学生に対する援助の方法やリフレクションについて継続的に研究を行っているところです。

学生の実習園でもわらべうた保育を実践している所がかなりあります。自身の研究と学生の学びをつないでいけるように、日々精進していきたいと思っています。

最後になり恐縮ですが、これからご指導・ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。

石川 素子(帝京大学)

新入会員・会員異動 (2023.4.12~2023.6.19) (省略)

寄贈図書 (2023.4~2023.6)

一般社団法人日本保育学会『保育学研究倫理ガイドブック 2023』一般社団法人日本保育学会、
2023年5月。

事務局からのお知らせ

1) 役員選挙のお願い

このたび、幼児教育史学会の第8期役員選挙を行います。以下の規程にもとづく有権者の皆様に選挙のご案内を同封しております。ご投票をよろしくお願いいたします。

<役員選挙規程> 第3条 役員選挙の有権者は、選挙の行なわれる年度の前年度会費を6月30日までに納入した者に限る。ただし、新入会員については、当該年度の会費を6月30日までに納入した場合に限り有権者とする。

2) 会費納入のお願い

本学会の会計年度は10月1日から翌年の9月30日までです。振込用紙は、第18回大会年度(2022年10月1日~2023年9月30日)とそれ以前の年度の会費が未納の方にお送りしております(2023年6月末確認)。宛名シール上に記載された未納分年度をご確認のうえご納入ください(シールの記載と振り込み用紙のない会員は完納状態にあります)。本状と行き違いでご納入の場合には、何卒ご容赦ください。

年会費: 一般会員 7,000 円、特例会員(学生・退職者等) 4,000 円

送金先: 郵便口座番号 00190-9-73668

加入者名: 幼児教育史学会

3) 「会報」への原稿募集

会報を通じた情報提供と交流を随時はかっています。会員からの研究情報、自己紹介文、幼児教育史研究への提言、関連エッセイなどを事務局までぜひお寄せください。年2回の会報発行時までに届いた分を調整の上、掲載いたします。次回会報は2022年2～3月頃を予定しています。

3) 所属・住所などの変更届けに関するお願い

変更が生じた場合は、もれなくメールにて学会事務局までお知らせください。



幼児教育史学会会報 第36号

2023年 6月 30日

発行者 幼児教育史学会

113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学大学院教育学研究科 浅井幸子研究室気付

幼児教育史学会事務局

E-mail: admin@youjikoikushi.org

郵便振替 00190-9-73668

編集 塩崎美穂 印刷 木元省美堂